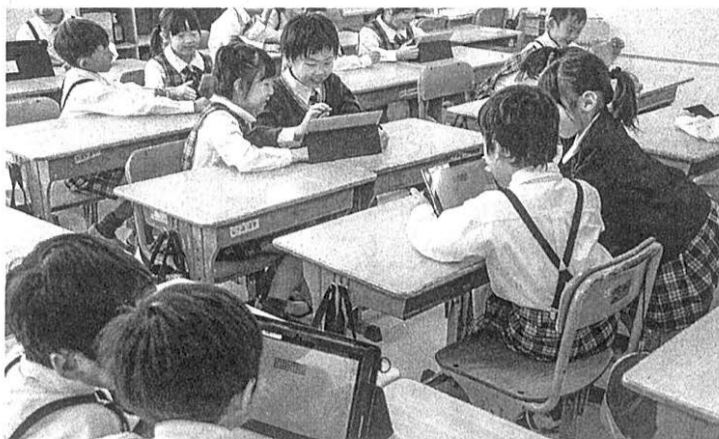
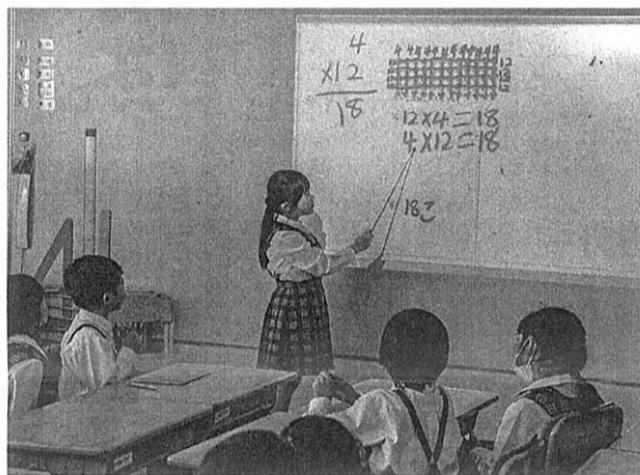


ICT活用し「深い学び」実現へ

大阪初芝学園はつしば学園小学校



タブレット端末を使い、ペアで考えを出し合いながら課題解決に取り組んだ



考えをホワイトボードに映し、解決までの過程を説明する児童

21世紀を担う人材育成に力を入れている私立・大阪初芝学園はつしば学園小学校(加藤武志校長、児童508人)。ICT機器を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んでいる。授業では「ペア・グループ学習」を取り入れる。重点に置

友達の考え聴き学び合う

「そういうことか!」。業だ。友達の考えを聴き、納得する子どもたち。九九の学習を生かした2年算数科の授業。教師が問い掛けると、本並び、所々のリンゴが抜か

れた絵だ。2、3人のグループで解決方法を考えた後、全体で考えの共通点や違いを見つけている場面もあった。「子ども自ら『なぜ?』となることの方が、学習に

全教科で「ペア・グループ学習」

同校では、子どもたちの将来を見据えて英語教育や体験学習の充実など、「確かな学力」を育む「学び」

対する興味・関心が高まる。そう考えた授業者の田中祐希教諭(ICT教育研究主任)。算教科に限らず、「はつしばスタイル」と呼ばれる実践を積み重ねている。「ジャンプの課題」と呼ばれる。しかし、難し過ぎると途中で学習を諦めてしまう子どももいる。そのため、「きちんと実態を踏まえ、教材研究を行うことは欠かせない」と、田中研究主任は話す。

に力を入れている。重点に置くのは、「主体的・対話的で深い学び」の実現。その充実を図るために、ICT機器を効率的・効果的に活用し、全ての教科でペア・グループ学習を取り入れようとしている。こうした学びを導くには、校内のあらゆる場面でWi-Fiにアクセスできる環境を整えた。しかし、目的はICT機器を使うことではない。重点に置くのは、ICT機器を活用して子ども同士が考え、学び合うということ。コミュニケーションツールの一つとして活用することに軸を置く。ペア・グループ学習を支えるソフトなども活用することで、加藤校長は「教師一人ひとりの授業力向上にもつながっている」と話す。

アンケートで成果検証も

新学習指導要領の全面実施に向け、本年度から2年生を対象に週1回の「情報」の時間を設定した。プログラミング学習が、3年生から取り組む総合的な学習の時間で行われることが多く見据えられた形だ。昨年使用し、授業の中で活用し度「情報教育年間目標」を作成し、身に付けさせた。今後、教師と子どもにアンケートを実施する。どの

「ICT機器を活用すること」で、子どもの学び(思考力・表現力など)が向上しているところをぜひ見たい」と話している。

はつしば学園小 0207 2・2335・6300

思考力・表現力を向上させる手だてに

型ホワイトボードと電子黒板機能付きプロジェクターがあるなど、ICT機器の充実した学習環境に目が向きがちである。しかし、着目してほしいのは、子どもたちの思考(見える化)できること。ICT機器を活用する力や表現力を向上させる手だてとして活用しているところである。ICT機器を活用する力や表現力を向上させる手だてとして活用しているところである。ICT機器を活用する力や表現力を向上させる手だてとして活用しているところである。



小柳 和喜雄 奈良教育大学教授

大阪初芝学園はつしば学園小学校を訪れると、一人一台のタブレット端末だけでなく全教室に大型ホワイトボードと電子黒板機能付きプロジェクターがあるなど、ICT機器の充実した学習環境に目が向きがちである。しかし、着目してほしいのは、子どもたちの思考(見える化)できること。ICT機器を活用する力や表現力を向上させる手だてとして活用しているところである。ICT機器を活用する力や表現力を向上させる手だてとして活用しているところである。